

クマの被害から皆さんの安全を守ります

「花巻市クマ等の銃猟・麻酔捕獲に関する対応マニュアル」を策定しました

※策定した「花巻市クマ等の銃猟・麻酔捕獲に関する対応マニュアル」は市ホームページに掲載しています



クマの目撃件数、捕獲頭数ともに大幅に増えています

本年度、市に寄せられたツキノワグマ(以下、「クマ」と表記)の目撃件数は11月19日時点で821件で、すでに昨年度の目撃件数303件を大幅に上回っています。また、同日時点で市が捕獲したクマの頭数も昨年度の14頭を大幅に上回る71頭で、引き続きクマの出没に注意が必要です。

緊急銃猟に対応するための環境を整えました

市が同日時点で捕獲した71頭のクマのうち66頭は箱わなによるものであり、今後も捕獲者にとって、より危険の少ない箱わなによる捕獲が中心となる見込みです。

その上で、本年9月から可能となったクマなどの「緊急銃猟(*1)」の実施に対応する環境を整えるため、市ではこの度、「花巻市クマ等の銃猟・麻酔捕獲に関する対応マニュアル」を策定しました。

このマニュアルは、緊急銃猟の実施に関する事項のほか、緊急銃猟に限らず県からの市に対する捕獲許可・特例許可(*2)に基づく銃猟な

。緊急銃猟による捕獲
。麻酔による捕獲
。箱わなによる捕獲

■緊急銃猟を実施する際の必要事項

緊急銃猟を実施することにした場合は、市職員を中心に構成する「緊急銃猟対策チーム」を設置すること、また、そのチーム内の各班の役割について規定しています。

なお、緊急銃猟の実施の判断は市町村長が行うこととされていますが、本市の場合、より迅速に実施できるよう、市長が委任した農林部長(不在の場合は、農村林務課長)が緊急銃猟の実施の判断をできることとしています。

農林部長は、緊急銃猟の実施の判断をした場合、「緊急銃猟対策チーム」の各班長にその旨を伝え、必要な人員の確保や準備を直ちに行うよう指示をします。また、花巻警察署の支援を受ける体制を確保するとともに、必要に応じて岩手県の支援を得ることとしています。

■緊急銃猟対策チームの各班の主な役割

①指揮班：緊急銃猟に関する指揮全般を行います
②安全確保班：弾丸が人または引火

ど、また、麻酔によるクマの捕獲の判断などに関する事項を定めたものです。

市ではこのマニュアルに基づき、必要に応じて緊急銃猟を実施するなど、今後も引き続き市民の皆さんの暮らしと安全を守ることを最優先に対応していきます。

マニュアル策定までの経緯

■今までは銃でクマを捕獲することはできなかったの？

今までも、次の二つの法律によって銃によるクマの捕獲が可能となっていました。

①鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護管理法)による場合

この法律は、日本の野生鳥獣を保護する一方、個体数が増えすぎたり市街地などに出没して人や農作物に被害を及ぼしたりする場合に、適切に野生鳥獣を管理するための法律です。これに基づき、花巻市鳥獣被害対策実施隊員(以下、「実施隊員」と表記)などが、銃による狩猟や、県からの市に対する捕獲許可・特例許可

②警察官職務執行法による場合

鳥獣保護管理法の場合、住居集合地域等(*3)や乗り物(電車や自動車など)の中などでは、銃猟による捕獲が禁止されていました。

そのため、このような場所では原則として銃を発砲することができませんでしたが、人に危険が差し迫っている状況になった場合には、「警察官職務執行法」に基づき、警察官がハンターなどに発砲を命じることが可能となりました。しかし、例えば、クマが家の中や施設内に侵入して膠着状態にある場合は、人に危険が差し迫っているとはならず、警察官職務執行法による銃の発砲命令は出すことができません。

■緊急銃猟制度がスタート

このような膠着状態にあっても、より予防的・迅速な対応が必要と考えられる場合に対応するため、「緊急銃猟」と呼ばれる制度が創設され、本年9月からスタートしました。この緊急銃猟を実施するために、市町村においてマニュアルを作成する必要があったことから、「花巻市クマ等の銃猟・麻酔捕獲に関する対応マ

ニュアル」を策定しました。

■警察官もライフル銃によるクマの駆除が可能に

国家公安委員会規則の改正が11月13日に施行され、警察官によるライフル銃を使ったクマの駆除が可能となりました。岩手県警察と県外から派遣された銃器対策部隊で編制する「クマ駆除対応プロジェクトチーム」が始動し、ライフル銃を使ったクマの駆除も視野に県内の警戒や巡視を始めています。

策定したマニュアルの概要

■クマ捕獲の判断

クマの出没に関する情報が寄せられると、市職員、実施隊員が速やかに現地調査を行い、クマの捕獲の必要性について判断します。

■クマの捕獲方法の選択

市職員、実施隊員は、クマによる人身被害の可能性が切迫しているかなどを踏まえ、クマの捕獲方法を次の中から選択します。

。県からの市に対する捕獲許可・特例許可に基づく銃猟による捕獲

物などの危険物に到達する可能性があり、危険だと思われる範囲の通行禁止・制限の実施、ホームページ、SNSなどによる周知活動などをを行います

③捕獲班：捕獲者の選定、安全確保の方法や発砲の向きなど銃による捕獲の実施に関する計画調整、クマの監視、銃猟によるクマの捕獲、銃猟後のクマの状態確認などを行います

*1：緊急銃猟とは

住居集合地域等や乗り物(電車や自動車)の中などにクマなどが出没した場合、人に弾丸が当たらないように安全確保した上で、市町村の判断で銃猟を可能とする制度。

市町村長は▼住居集合地域等や乗り物(電車や自動車)の中などにクマが侵入、またはその恐れがある▼危害防止が緊急で必要▼銃猟以外での迅速な捕獲が困難▼住民に弾丸が当たる恐れがない▼クマがその場にとどまる可能性が高いーなどと判断した場合に、市町村職員や委託した実施隊員などに緊急銃猟をさせることができます。

*2：県からの市に対する捕獲許可・特例許可とは

市がその年度内に捕獲予定のクマの数(狩猟を除く)や捕獲方法、捕獲期間などを県に申請し、許可を受けたもの

*3：住居集合地域等とは
住居が集合している地域や広場、駅、その他多くの人が集合する場所